

学番	中等 6	県立佐渡中等教育学校
----	------	------------

令和 6 年度

学校自己評価表（報告）

学 校 運 営 計 画		
学 校 運 営 方 針	①自己実現に向けた確かな学力の育成 6年間一貫した学習指導やキャリア教育により、前期課程からしっかり学習習慣を身に付け、学習意欲を継続させながら、主体的に学ぶ力を伸ばす。 ②豊かな人間性と世界的視野の育成 異学年や海外異文化との交流や様々な体験活動をととして、他者を尊重する心を育むとともに、コミュニケーション能力や表現力を高める。 ③郷土を愛し、地域に貢献する態度と資質の育成 佐渡の歴史と文化を学び、地域の人々との体験活動をととして、佐渡に誇りをもたせるとともに、地域に貢献したいという志を育む。	
三つの方針(スクール・ポリシー)		
育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	①幅広い教養、課題解決力、主体的に学ぶ姿勢を身に付け、進路希望を実現できる力を育成します。 ②健全な心身を育てるとともに、グローバル社会で活躍できるコミュニケーション能力を育成します。 ③多様な価値観を認め合い、人権を尊重することの大切さ、いじめを決して許さないことを学び、他者を思いやる心を育成します。 ④変動する社会において他者と協働しながら自己肯定感を身に付け、力強く生きていくことのできる生徒を育成します。 ⑤郷土の歴史と文化に愛着を持ち、地域社会に貢献する態度を育成します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	①幅広い教養、確かな学力が身に付けられる教育課程を編成し、思考力・判断力・表現力等の育成を重視する授業を行います。 ②進路希望を実現できる力を育成するために、ICTを活用した個別最適化した学習活動を行います。 ③地域の歴史や文化・自然等の体験学習と、海外との異文化交流を実施し、自己の文化と異文化を深く理解する学習を行います。 ④学校行事、生徒会活動、部活動等で異学年交流を推進し、良好な人間関係の構築に取り組みます。 ⑤地域や外部機関等と連携し、より社会に直結する実践的な学び、他者と協働する機会を設定します。	
入学者の受入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	①夢を持ち、将来を展望しながら主体的に学ぶ意思がある児童 ②進路を実現させる強い意志と向上心を持って、学校生活を送ろうとする児童 ③答えのない問いに対して、知的好奇心を持って学び続け、問い続けようとする児童 ④教え合い、磨き合い、本校の学びに向かう精神に共感できる生徒児童 ⑤他者と協働しながら、授業、学校行事、部活動等に主体的に取り組む姿勢を持つ児童	
昨年度の成果と課題	年度の重点目標	具体的目標
・ICT活用により、校務の効率化と授業改善を行うことができた。 ・職員の時間外勤務について月80時間超ゼロを達成したが、年間720時間超ゼロは達成できなかった。 ・生徒の「個別最適な学び」を実現し、生徒が希望する進路の達成を支援する。 ・これまで行ってきた業務を精選・改善し、効率化を図るとともに、職員同士の協働体制を構築し、働き方改革を進めていく。	豊かな心と健やかな身体の育成	・望ましい人間関係の構築 ・自己有用感の育成
	自己実現に向けた確かな学力の育成	・家庭学習を含めた学習習慣の確立 ・6年間のシラバスの作成と有効活用
	郷土を愛し地域に貢献する態度の育成	・「能楽」の実施と「佐渡未来学」の充実 ・グローバル人材育成への取組充実
	世界的視野で活躍する人材の育成	・「海外研修」の実施と国際交流の充実 ・「異文化体験」「異文化理解」への取組充実
	個別最適な学びの確立	・ICT活用の工夫・推進 ・自立して学習できる生徒の育成

重点目標	具体的目標	具体的方策		評価	
学習指導	学習習慣の確立	家庭学習課題の明示と毎日の点検、補充の指導の充実		A	A
		学び方の指導の徹底		A	
		学習規律の徹底		A	
		各種検定試験への積極的参加の推奨		A	
	分かる授業と学び合う授業の実践	学び合いの集団作りと主体的・対話的で深い学びの充実		A	A
		発展的な学習内容の充実		A	
	6年間を見通した系統的な指導	シラバスの作成とシラバスを活用した学習指導の実施		A	A
		学習生活記録やスケジュール手帳を用いた家庭学習の奨励と点検		A	
進路指導	後期生の進路実現を目指した具体的目標の達成	進路講演会や行事、体験を通しての自己理解と支援		A	A
		大学入試への対応 ①大学進学率 70%以上（大学入学共通テスト受験率 100%） ②国公立大学合格者 12 名以上（在籍生徒の 30%以上） ③進研模試偏差値 4 学年 3 教科（国数英）偏差値 50 以上 5 学年 3 教科（国数英）偏差値 50 以上 6 学年 5 教科（国数英理地公）偏差値50以上		B	B
総合的な学習の時間・総合的な探究の時間	課題探究方法の習得及び発表力・表現力の育成	各学年のテーマや課題について探究活動を行う。活動の結果を発表、共有しさらに良い探究活動を目指す。		A	A
		学習発表会や校内発表会等に向けた発表力や表現力の育成		A	
	郷土を愛する心の育成	スクール・カルチャー「能楽」や「佐渡未来学」の実施		A	A
	進路意識の高揚	生き方や将来について考え、進路実現に向けた取組への啓発活動		A	A
	世界的視野の育成	研修旅行等の実施と異文化交流		A	A
特別活動等	望ましい集団づくり	学活、行事での協力体制づくりと異年齢集団による活動の支援		A	A
		生徒会を支援し、生徒の自主自立の力を育む		A	
		Q－U調査を利用した生徒理解と、集団への所属感の育成		A	
道徳	思いやりの心の育成	認め合い高め合う集団作りの指導		A	A
		ボランティア活動の実施		B	
生徒指導	望ましい人間関係の構築	Q－U調査と「こころの体温計」の内容に基づいた生徒支援		A	A
		教育相談、特別支援教育の内容に基づいた実態に即した支援		A	
	基本的生活習慣の確立	生活ノート等の点検や教育相談によるきめ細かな指導を要請		A	A
		服装、時間、きまりやネットモラル遵守の徹底指導		A	
	いじめや生徒の悩みへの対応	アンケートを年 6 回実施し、いじめや生徒の悩みの早期発見に努める。また、迅速な解決に向けて支援をする。		A	A
働き方改革	「働き方改革」の一層推進と「協働」	教務部	ルーティーン業務（成果）の引き継ぎ	A	A
			業務の削減	B	
			協働体制の構築	A	
		進路指導部	ルーティーン業務（成果）の引き継ぎ	A	A
			業務の削減	A	
			協働体制の構築	A	
		生徒指導部	ルーティーン業務（成果）の引き継ぎ	A	A
			業務の削減	B	
			協働体制の構築	A	
成果		働き方改革の一層の推進を目指して業務の I C T 化を進めるとともに、各分掌において、ルーティーン業務の整理に努めることで、引き継ぎ体制の強化を図ることができた。今後は業務の削減が進められるよう取り組んでいく。		総合評価 A	